薬事委員会記録

日 時：平成 23 年 6 月 9 日（木） 16 時 00 分

場 所：医学部 1 階 小会議室

出席者：伊藤、大野、諏訪、豊木、青木(隆)、大江、青木(光)、加納、安田(満)、天野、木村(豪)、松本、森田、木村(暁)、富松、齋藤、長瀬、堀川、竹中、中口、松浦、北市、岡安、安田(浩)

代理出席者：内木〔一内〕、土井〔高次救命〕、大野〔光学医療〕、笠原〔生体支援〕

委任状提出：村瀬、川瀬、畠山、紀ノ定、倉坪

欠席者：林、金森、大塚、鶴見

新規委員の紹介

平成 23 年 4 月から新たに配属された委員の紹介があった。

記録の承認

平成 23 年 3 月 3 日開催の薬事委員会の記録を承認した。

協議事項

1. 医薬品の採用について

ピレスパ錠以下 8 品目の採用を承認した。

2. 医薬品の継続試用について

クラビット点滴静注バッグ以下 13 品目の継続試用を承認した。

3. 医薬品の新規試用について

プラザキサカプセル以下 13 品目について、薬剤師および申請診療科より説明があり、新規試用の承認可否について投票を実施した。新規試用医薬品については、名称・外観類似性の検討資料の他に、次回からは同効薬を資料に掲載するとの説明があった。

①以下の薬剤について、申請に伴い同効薬の採用中止を検討して頂くよう依頼した。

- ・フェブリク錠 ⇒ ザイロリック錠
- ・ウリトス OD 錠 ⇒ 他の泌尿器用抗コリン剤（ポラキス錠、バップフォー錠など）
- ・インヴェガ錠 ⇒ 他の非定型抗精神病剤（ルーラン錠など）

②パクリタキセル点滴静注液 30mg の製剤変更および同 100mg の新規採用については既にレジメン審査部会にて承認を得ていたことを報告したが、既存の薬剤が採用中止となる場合は医局員と相談した上でなければ委員会の場での判断ができないため、薬事委員に対しても事前に資料を提供してほしいとの意見が診療科より挙げられた。

③ネクサバル錠の採用に関して、適応内での使用の徹底と不良在庫の懸念について薬剤部より説明があった。診療科と病棟担当薬剤師が連携して、上記問題を解決する方法を検討すべきとの意見が診療科より挙げられた。

④不良在庫に伴う薬剤の廃棄があった場合には申請科へもフィードバックし、適切な対応を促すべきとの意見が診療科より挙げられた。

4. 医薬品の院内採用中止について

アスペノンカプセル以下 11 品目の採用中止を承認した。

ソリタ T3 号 G 輸液については、院内にてハルトマンーG3 輸液との取違い過誤の報告があったため、採用中止としたことが説明された。

5. 医薬品の製剤変更について

ベシケア錠以下 3 品目の製剤変更について説明があり、全て承認した。

パクリタキセル点滴静注液 30mg の製剤変更は投票によって採用可否を決定した。
マグラックス錠の製剤変更については、岐阜大学病院薬剤部主導のもと実施された J-RIGID 試験の結果に基づき、500mg 製剤の必要性を説明した。しかし、事前に変更の連絡がなかったため検討が困難であるとの意見があり、採用の可否については次回の薬事委員会にて判断することとした。なお、錠剤の大きさの変更等について検討する必要があるとの意見もあった。

6. 医薬品の販売中止に伴う切替医薬品について
メルビン錠以下 2 品目の切替について説明があり、全て承認した。
7. 医薬品の院外採用について
ノービア錠以下 16 品目の院外採用を承認した。

報告事項

1. 緊急購入医薬品の登録について
ノービア・ソフトカプセル以下 16 品目の緊急購入の登録が報告された。

その他の事項

1. 薬事委員会内規の改訂について
今回の改訂において、従来の医薬品の採用基準を一部追加・改訂した上で委員会内規に追記したこと、および抗がん剤のレジメン審査部会の事前承認と新規高額医薬品の採否対応について追記したことが報告され、原案通り承認された。

医薬品安全管理に関する検討会

1. 院内製剤の整備について
院内製剤の整備を行うため、薬剤部で作成した「院内特殊製剤の依頼と使用の手順」が報告され、運用について周知された。
院内製剤の倫理委員会への申請について検討した結果、ハイドロキノン軟膏・リドカインクリーム・ピオクタニン・硝酸銀液については倫理委員会での承認を得ることとし、ルゴール内用・チラーヂン S 坐剤・ミラクリッド膣坐剤・メトロニダゾール軟膏・テイネイ水・生理食塩液点鼻点耳用・ルゴール液内視鏡用についてはこれまでの使用経験に基づき安全性が高いと考えられるため倫理委員会の承認は不要とした。
2. ハイリスク薬に関する安全使用マニュアルについて
薬剤部で作成した「ハイリスク薬に関する安全使用マニュアル」が示され、原案通り承認された。また、診療科からの意見を踏まえ随時改訂していくこととした。
3. 医薬品安全使用に関する業務手順書に基づいた業務実施状況について
医薬品安全使用に関する業務手順書に基づいて評価した各部門における業務実施状況のうち、C 評価の項目について改善策に基づいて業務を改善した結果、全ての部門において改善されたことが報告された。
4. 安全キャビネットの使用説明会開催について
薬剤師による抗がん剤の調製が不可能である場合にも安全な調製を行う必要があるため、安全キャビネットの使用方法について説明会を開催することとなり、日程等について説明があった。

次回薬事委員会の開催日時は、平成 23 年 9 月 1 日(木)とした。